

9日間の様々なプログラムを通して

内山 晶未

私は、環境問題や自然保護について興味があったため、環境について深く学べる大学を選びました。その大学では環境だけでなく、地域が抱える課題の解決策を考える講義もあり、私はだんだん自分が地域活性化の担い手になりたい、と考えるようになりました。しかし、具体的に何がしたいのかが自分でもわかりませんでした。そこで夏休みを活用し、行ったことのない地域で色々な事を経験してみようと思い、河北潟湖沼研究所さんのインターンシッププログラムに応募させていただきました。様々なプログラムに参加させて頂いて感じたことや考えたことを書きたいと思います。

まずは、カヌーでゴミ拾いについてです。こちらはカヌーを自分で漕いで河北潟に捨てられているゴミを拾うというクリーン作戦です。私はペットボトルや服などがたくさん捨てられていた河北潟が、昔は泳ぐことが出来るくらい綺麗であったことを聞き、とても驚きました。変わり果ててしまった河北潟を元通りにしたい、と地元の人がおっしゃっていたことが印象的でした。この経験を通して、私たちが物を買ったあと、最後まで責任を持って処理することがとても大事なのではないかと考えました。

次に、無農薬野菜と生きもの元気米についてです。今回のインターンシップでは、野菜の近くに生えている雑草の草刈や種まき、稲刈りを体験しました。私は畑で長時間作業をしたことが無かったので、想像以上に疲れてしまいました。農家さんは凄いな、と心から思いました。そして、農薬

を使うことによって生きものの生態系を壊してしまい、本来の豊かさが失われてしまう事を改めて学ぶことが出来ました。見た目のきれいさを重視するあまり強い農薬を使ってしまう、というお話を聞き、大事なのは見た目ではないということ強く感じました。また、本来は人間の手を加えることで自然豊かな環境を作ることが出来る、という言葉がとても印象に残っています。そのため、私たちは自然環境との関わり方を再確認していくべきだと考えました。

最後に、金沢駅西ゆうぐれ金曜マルシェに参加したときと、インターンシップ期間に貸してもらっていた古民家で食事会をしたときに感じたことです。マルシェでは、初めてマルシェを利用した方だけでなく、以前買った野菜が美味しかったからまた買いに来た、という方もいました。そして、古民家の食事会では年代も職種も異なる方々が来てくださり、様々なお話を聞くことができ、私にとって刺激的な日となりました。これらの事から共通して感じたことは、活動するうえで地元の人との深いかかわりが必要不可欠である、ということです。

これらのプログラムが、自分が今後何をするべきかを考えるととても良いきっかけとなりました。そして、多くの学ぶ機会を設けてくださり、9日間充実した毎日を送ることができました。本当にありがとうございました。また河北潟湖沼研究所さんの活動に参加させていただきたいです。

